

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を
依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

お客様相談センター【ご利用時間 9:00～18:00】※全日対応(土・日・祝日対応)

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822** ※携帯電話、IP 電話からもご利用いただけます。

全国営業拠点

■支店の移転等により連絡がとれない場合は、下記のアドレスから
最新の電話番号をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



●北海道支店	TEL (011) 786-5122	●北陸支店	TEL (076) 263-4311
●東北支店	TEL (022) 288-8676	●関西支店	TEL (06) 7167-3644
●東京支店	TEL (03) 5753-7703	●中国支店	TEL (082) 504-8282
●関東支店	TEL (03) 6374-5687	●四国支店	TEL (087) 863-6761
●中部支店	TEL (052) 533-0231	●九州支店	TEL (092) 621-5772

工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99748301 306 M

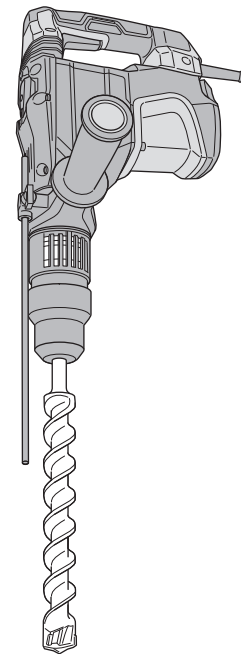
HIKOKI

取扱説明書

ハンマドリル

40 mm **DH 40MEY2** [SDS-max シャンクタイプ]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



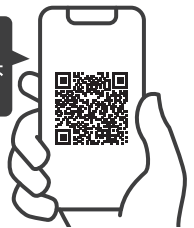
二重絶縁



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用する
ことはできません。日本国外で使用了場合は、仕様上の
性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理
または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be
sold or used in any other country. Otherwise, product may not
perform as intended. No authorized service or warranty is
available outside of Japan.

お得な情報や
ユーザー登録は
コチラから!



はじめに

電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	5
本製品の使用上のご注意	5
各部の名称	7
標準付属品	7
用途	8
仕様	8
別売部品	9

使い方

ご使用前の点検	11
サイドハンドルの取付け	12
工具の取付け・取りはずし	13
ストッパの使い方	14
作業モードの設定	15
スイッチについて	16
連続運転ボタンについて	16
回転数・打撃数の調整	17
保護機能について	18
RFCについて	19
スリックラッチ機構について	20
作業上のご注意	20
穴をあける	21
ハツリ・破碎する	23
コアビットの使い方	25
ドリルチャックの使い方	27

その他

保守・点検	28
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

⚠警告

感電、火災、重傷を招く事故を未然に防ぐため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、文中の「電動工具」とは、電源式（コード付き）電動工具を示します。

作業場の安全性

- ① 作業場は整理整頓して、十分な照明を確保してください。
散らかった暗い場所や作業台は、事故を招く恐れがあります。
- ② 爆発を誘引することがある可燃性の液体やガス、または粉じんがある所で電動工具を使用しないでください。
電動工具から発生する火花が発火の原因になります。
- ③ 電動工具の使用中は、子供や第三者を近づけないでください。
注意が散漫になり、操作に集中できなくなる場合があります。

電気に関わる安全性

- ① 電動工具の電源プラグに合ったコンセントを使用してください。電源プラグを改造しないでください。また、アダプタプラグをアース（接地）された電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよび、それに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。
- ② 電動工具の使用中は、金属製のパイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などアース（接地）されている物に体を接触させないようにしてください。
体が触れた場合、感電のリスクを増大させます。

⚠警告

屋外で使用する際には、③～⑤の注意が必要です。

- ③ 電動工具は、雨または湿気がある状態にさらさないでください。
電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
- ④ コードを乱暴に扱わないでください。
 - 電動工具を移動させたり、引いたり、または電源プラグを抜くためにコードを利用しないでください。
 - コードは、熱、油、角のとがった所、または動く物からはなしておいてください。コードが損傷したり、絡まったりすると、感電のリスクが増大します。
- ⑤ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
屋外使用に適したコードを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。

人への安全性

- ① 電動工具の使用中は、油断をせず、常識を働かせ、いま自分が何をしているかに注意して作業してください。
疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいるときは使用しないでください。一瞬の不注意で、深刻な傷害を招く場合があります。
- ② 安全保護具を使用してください。
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
 - 滑り防止安全靴やヘルメット、耳栓やイヤマフなどの安全保護具を使用することで、傷害のリスクが軽減されます。
- ③ 不意な始動を避けるため、電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
スイッチに指を掛けて運んだり、スイッチが入っている電動工具の電源プラグをさし込むと、不意に始動し事故を招く恐れがあります。
- ④ 電動工具の電源を入れる前に、レンチや調整キーをはずしてください。
工具の回転部分にレンチやキーなどを付けたままにしておくと、傷害を招く恐れがあります。
- ⑤ 無理な姿勢で作業をしないでください。
常に適切な足場とバランスを維持することで、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服や装飾品は着用しないでください。
 - 髪や衣服、および手袋を回転部に近づけないでください。
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ 集じん装置が接続できる物は、適切に使用してください。
粉じんによる人体への悪影響を軽減することができます。

⚠ 警告

電動工具の使用および手入れ

- ① 無理に使用せず、用途に合った電動工具を使用してください。
用途に合った電動工具を使うことでより良く、安全な作業が行えます。
- ② スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は事故を招く恐れがあるので、使用せず修理を依頼してください。
- ③ 誤作動防止のため、次の作業前は電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 準備や調整。
 - 付属品や別売部品の交換。
 - 保守・点検や保管。
 - その他、危険が予想される場合。このような安全対策によって電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
- ④ 使用しない電動工具は、子供の手の届かない所に保管し、電動工具に不慣れな者や取扱説明書を読んでいない者には電動工具を使用させないでください。
電動工具を扱い慣れていない者に渡すと事故の原因になります。
- ⑤ 電動工具の保守・点検を適切に行ってください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 異常がある場合は、使用する前に電動工具の修理を行ってください。電動工具の保守が不十分であることが、事故の原因となります。
- ⑥ 先端工具は、鋭利かつ清潔に保ってください。
先端工具を適切に手入れし、先端を鋭利に整えておくことで、作業を円滑にし操作が容易になります。
- ⑦ 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件や、実際の作業を考慮し、取扱説明書に従って適切に使用してください。
取扱説明書に書かれていない使用方法で作業すると、傷害を招く恐れがあります。
- ⑧ 電動工具は異常な高温、または低温の場所で使用すると能力を十分発揮できません。

整備

- ① 電動工具の修理は、修理専門要員が純正交換部品だけを用いて行ってください。
これにより電動工具の安全性を維持することができます。

その他の項目

- ① 取扱説明書はお読みになった後も、使用する方がいつでも見られる所に大切に保管し、利用してください。
他の人に電動工具を貸し出す際は、取扱説明書も一緒にお渡しください。

⚠ 警告

- ② 十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。
特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。
- ③ アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用しないでください。
アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。
- ④ 加工する物をしっかりと固定してください。
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑤ 作業前に確認してください。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
 - 巻き込まれる恐れのある手袋はしないでください。
 - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
 - 保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
 - コードや延長コードは事前に点検し、損傷している場合には修理・交換してください。
 - 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑥ 電動工具は取扱説明書に従い、正しく使用してください。
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
 - 電動工具は指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑦ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用しないでください。
- ⑧ メンテナンスをきちんと行ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
 - アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用した電動工具の保守・点検・修理は受付できません。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に **回** マークで表示してあります。
純正品以外の部品と交換したり、間違って組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、ハンマドリルについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、速度が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。
埋設物があると先端工具が触れ、感電や漏電・ガス漏れの恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 使用中はサイドハンドルを取付け、振り回されないようにハンドルと、サイドハンドル両方を確実に保持してください。
- ④ 使用中は、工具類に手や顔などを近づけないでください。
- ⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑥ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、工具類や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。

⚠注意

- ① 付属品や別売部品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ③ 騒音からの保護のため、耳栓を着用してください。
- ④ 使用中は、ヘルメット、安全靴を着用してください。
- ⑤ 使用直後の工具類は高温になっているので、触れないでください。
- ⑥ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑦ 運転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑧ 作業の際、機体を無理に押し付けしないでください。
先端工具を傷めて作業効率が低下するだけでなく、機体が故障する原因になります。
- ⑨ 機体で材料をたたき、落下等の強い衝撃を加える、水にぬらすことなどをしないでください。
内蔵している精密部品が破損し、誤作動等をおこす原因になります。
- ⑩ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。

○騒音防止規制について

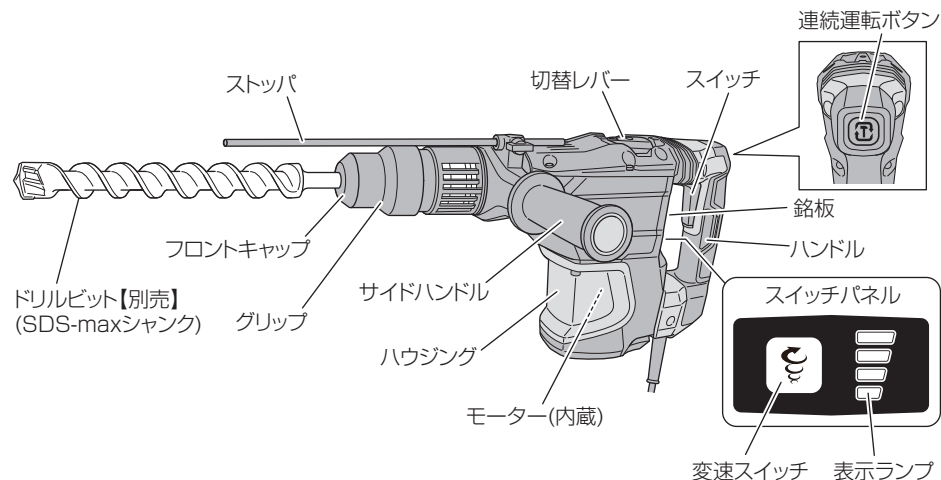
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠警告マークについて

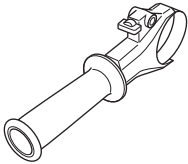
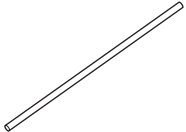
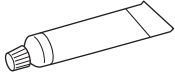
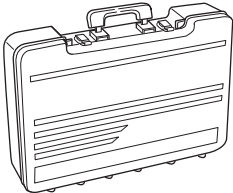


このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグをコンセントにさしたまま準備や点検、工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

各部の名称



標準付属品

サイドハンドル(本体装着) 	ストップ 
グリース 	プラスチックケース 

用途

〔回転+打撃〕

- コンクリートの穴あけ
- アンカ下穴の穴あけ

〔打撃〕

- コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・角出し・切断・はがし

仕様

形 名	DH 40MEY2
使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
穴 あ け 能 力	ドリルビット 40 mm、コアビット 105 mm
全 負 荷 電 流	13.5 A
消 費 電 力	1,150 W
無 負 荷 回 転 数	250～500 min ⁻¹ {回/分}
全 負 荷 打 撃 数	1,400～2,800 min ⁻¹ {打撃/分}
モ ー タ ー	ブラシレスモーター
適 用 ビ ッ ト	SDS-max シャンクタイプ
質 量 [コードを除く]	6.8 kg (サイドハンドルを含む) 6.5 kg (サイドハンドルを除く)
コ ー ド	2心キャブタイヤケーブル 5 m
振 動 3 軸 合 成 値 ^{※1}	回転+打撃 10.9 m/s ² ^{※2} 打撃 10.6 m/s ²

※1: 振動 3 軸合成値 (周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値) については、JEMA [一般社団法人日本電機工業会]

ウェブサイト: <https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>
を参照してください。

※2: 振動 3 軸合成値は、EN62841-2-6 規格に基づき測定しています。

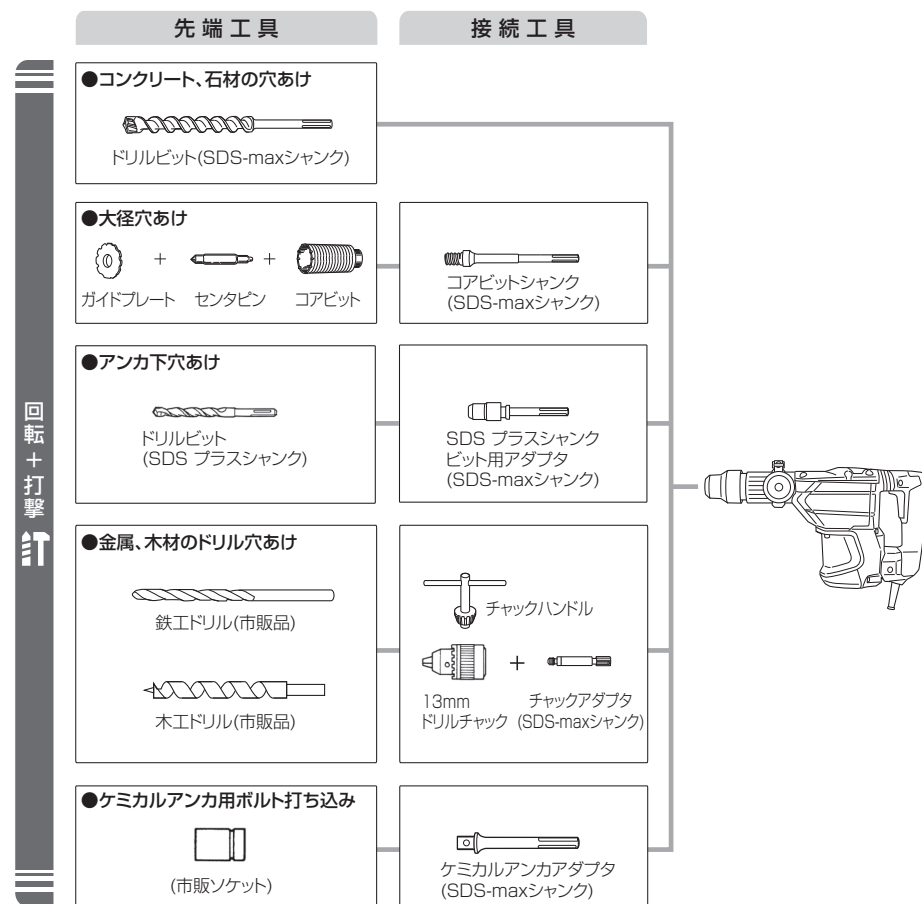
別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

用途に応じた先端工具(アタッチメント)を使用することで、いろいろな作業に利用できます。

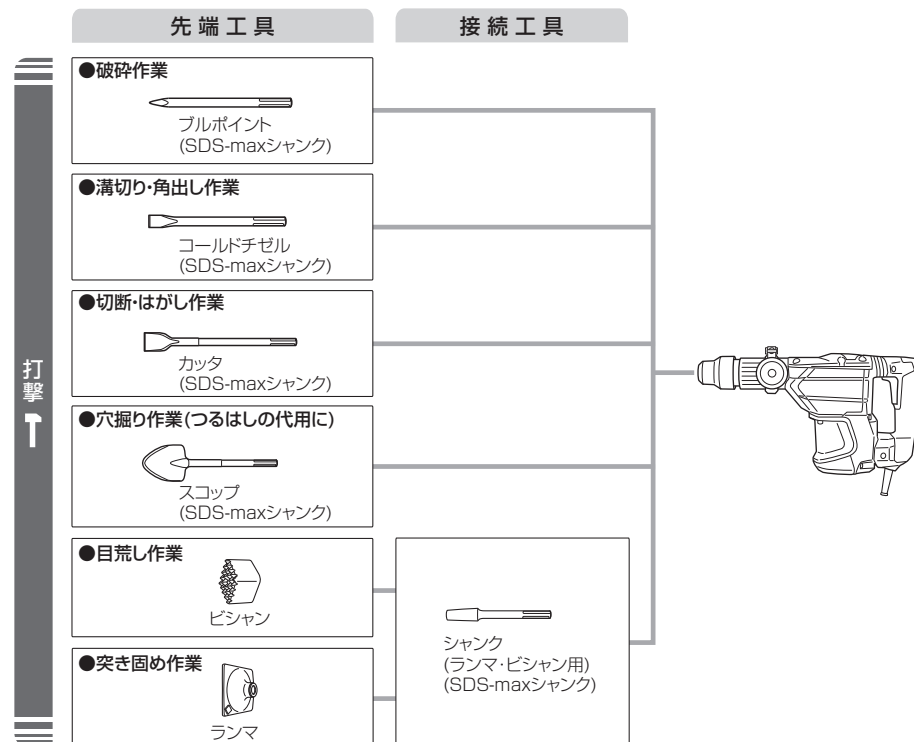
各部寸法等については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

なお、この機体の工具取付け部は SDS-max シャンク品専用となっておりますので、SDS-max シャンクの先端工具または各種アダプタ(接続工具)を使用してください。

●[回転+打撃]モードで使用

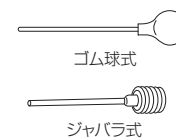


●[打撃]モードで使用



●その他

●スポイト(穴あけ後の切り粉除去用)



ご使用前の点検

●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造のため、法令により漏電しゃ断器の設置は免除されています。しかし、万一の感電を防止するためにも漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをお勧めします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードを使用してください。

右表は使用できるコードの太さと、最大長さの目安です。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

コードの太さ (mm ²) (導体公称断面積)	最大長さの目安 (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

※ 導体公称断面積は、コードに表示されています。

●使用電源の確認

- 銘板に表示してある電源で使用してください。
表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。
- 直流電源や変圧器、溶接機などの電源で使用しないでください。
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

●コンセントの確認

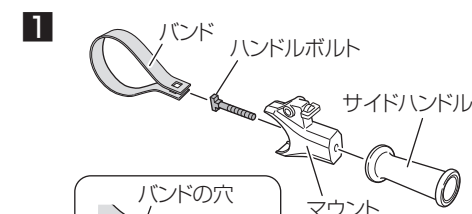
コンセントがガタつく、または抜けやすいコンセントは修理が必要です。

修理には電気工事士の資格が必要です。お近くの電気工事店などに相談してください。修理せずにそのまま使用すると、過熱して事故の原因になります。

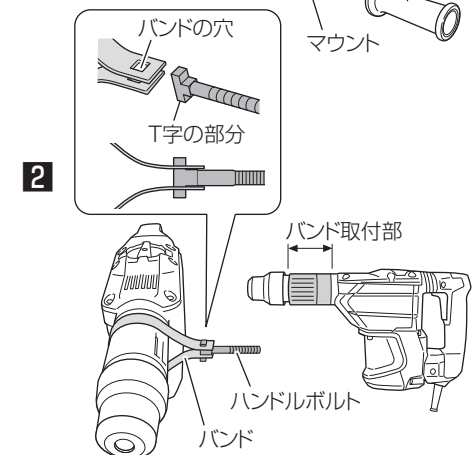
🔧 サイドハンドルの取付け

付属のサイドハンドルは、出荷時本体に装着しています。取りはずした場合は、次の手順で取付けてください。

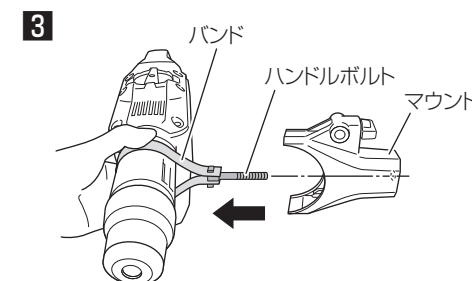
- 1 サイドハンドルの部品を確認します。



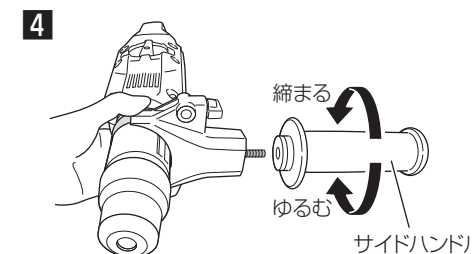
- 2 バンド取付部にバンドを取付け、ハンドルボルトのT字の部分バンドの2つの穴に通します。



- 3 ハンドルボルトがバンドからはずれないように、バンドを押さながらマウントを装着します。



- 4 サイドハンドルを取付け、作業に適した位置に合わせて固定します。この際、確実に固定されていることを確認してください。



⑫ 工具の取付け・取りはずし

この機体の工具取付け部は SDS-max シャンク品専用となっておりますので、SDS-max シャンクの先端工具、または各種アダプタ（接続工具）を使用してください。

取付け

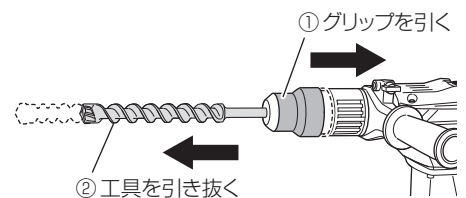
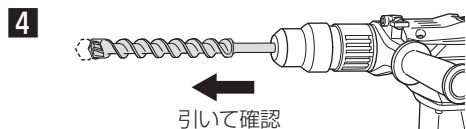
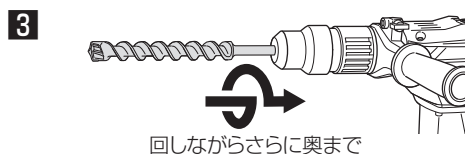
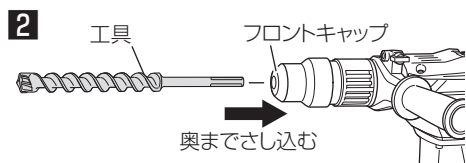
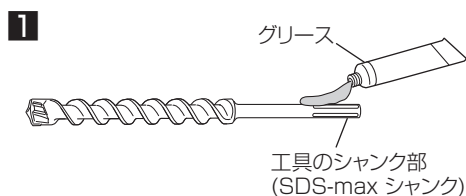
- 1 工具のシャンク部をきれいにふき、グリースまたは機械油を塗布します。
摺動が円滑になり、工具を押し込みやすくなります。また、工具のシャンク部や取付け部の摩耗が軽減されます。
- 2 工具をフロントキャップの穴にさし込み、奥まで突き当てます。
- 3 工具を軽く押しながら回していくと、工具の溝がかみ合ってさらに奥まで入って突き当たります。
- 4 確実に工具が固定されたか、工具を引いて確認します。

取りはずし

工具を取りはずすときは、グリップを矢印方向へ一杯に引き、工具を引き抜きます。

⚠ 注意

工具は弊社指定の別売部品を使用してください。
(P.9、10「別売部品」参照)

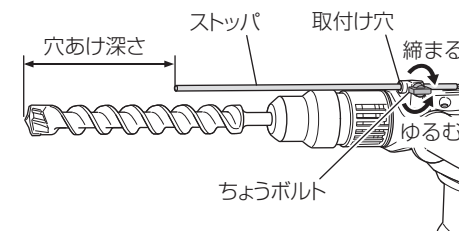


⑫ ストップの使い方

付属のストップは、穴あけ深さの調整に用いる物です。同じ深さの穴を連続してあける場合は、能率が上がり、穴の深さが正確になります。

- 1 ちょうボルトをゆるめ、サイドハンドルの取付け穴にストップを通します。

- 2 所定の穴深さになったとき、ストップが材料に突き当たるよう位置を調整し、ちょうボルトを回してしっかりと固定します。



作業モードの設定

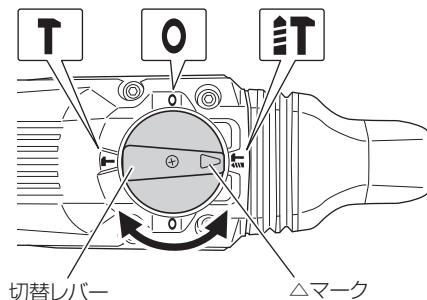
⚠ 注意

- モーター停止時に切替レバーを操作してください。
モーターの回転中に切り替えると、不意に工具が回り、思わぬ事故の原因になります。
- ハツリ・破碎用工具などは[打撃]モードで使用してください。
[回転+打撃]モードで使用すると、工具が回り、思わぬ事故の原因になります。

作業モードの設定

切替レバーを回して、△マークをクラックカバーの各マーク位置に合わせます。

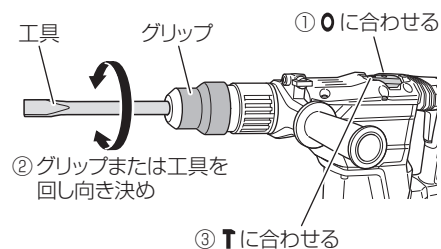
- IT** …… [回転+打撃] モード
T …… [打撃] モード
O …… 工具の位置決め



工具の位置決め

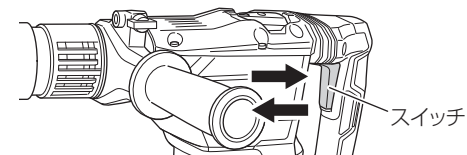
コールドチゼルや、スコップなどの工具先端の向きを決めるときは、

- ① 切替レバーの△マークを**O**に合わせて
- ② グリップまたは工具を回して、工具先端の向きを決めます。
- ③ 切替レバーを再び回して、△マークを**T**に合わせます。
- ④ 工具が回転しないことを確認します。



スイッチについて

スイッチは引くと入り、はなすと切れます。



連続運転ボタンについて

[打撃]モードで作業する場合のみ、スイッチを引いた状態で連続運転ボタンを押すと、スイッチをはなしても動き続ける連続運転になります。

⚠ 注意

本製品には磁気センサーが内蔵されているため、磁石（または同様の磁気装置）を機体に近づけないでください。誤作動をおこして、けがや故障の原因になります。

作業モード	操 作
T [打 撃]	運 転 スイッチを引いた状態で連続運転ボタンを押す。 (青色 LED: 点灯)
	解 除 連続運転ボタンを再度押す。
IT [回転+打撃]	連続運転ボタンは使用できません。

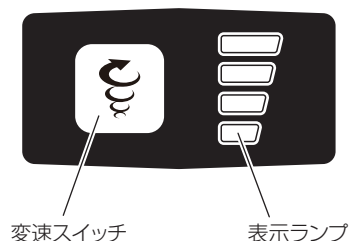
回転数・打撃数の調整

回転数・打撃数を調整する電子制御回路を内蔵しています。

もろい材料への穴あけ、ハツリ作業また芯出し作業など、作業内容により変速スイッチで回転数を切り替えてください。

変速スイッチを押すと、表示ランプとともに回転数が替わります。

注 モーターの回転中に変速スイッチを押しても切り替えはできません。機体を停止させてから、操作してください。



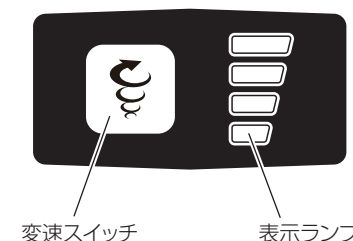
表示ランプ点灯状態				
回転数 min^{-1} {回/分}	250	340	420	500
打撃数 min^{-1} {打撃/分}	1,400	1,900	2,350	2,800

保護機能について

本機には機体に異常が発生した場合に、機体の損傷を防ぐ保護回路が内蔵されています。

次のような場合には、表示ランプが点滅して運転を制御したり、停止します。表示ランプの点滅状況を確認して対処してください。

変速スイッチは、スイッチを引いていない状態で押してください。



表示ランプ点滅状態	原因	対処方法
	内部温度が高温となり、規定値を超えたため、運転を停止した。 〔温度上昇保護機能〕	15～30分ほど機体を休めてください。 温度が下がると、変速スイッチを押した際に復帰します。
	機体に無理な力が加わり、過負荷状態となったため、運転を停止した。 〔過負荷保護機能〕	変速スイッチを押すと復帰します。 過負荷にならないよう作業してください。
	① 電圧が低すぎる、または高すぎる電源に接続されているため、起動しない。もしくは運転を停止した。 ② 電源プラグの抜き差しを短い間隔で行ったため、電圧信号の読み取りエラーとなり、運転を停止した。 〔回路保護機能〕	① 銘板に記載された電源電圧に接続してください。 変速スイッチを押すと、復帰します。 ② 電源プラグの抜き差しは、3秒以上間隔をあけてください。 変速スイッチを押すと、復帰します。
	センサー信号の読み取りエラーのため、起動しない。 もしくは運転を停止した。 〔制御監視機能〕	変速スイッチを押すと復帰します。 連続して発生するときは、故障の可能性があります。

注 対処方法を行っても表示ランプが点滅し続ける場合は、機体の故障が考えられます。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

RFCについて

本製品は、工具本体が振られてしまう現象を軽減する RFC (リアクティブフォースコントロール) が搭載されています。

急激に大きな負荷が先端工具にかかると、スリップクラッチ機構が作動する、または工具本体に内蔵されたコントローラがモーターを停止させ、上記現象を軽減します。

スイッチを引いている間、表示ランプが点滅します。さらに、スイッチを切ってから約3秒間点滅します。

点滅している間は運転できません。RFC が作動した原因を取り除いてから、作業を再開してください。

作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合がありますので、急激に大きな負荷が先端工具にかからないよう注意し、機体を確実に保持して作業してください。

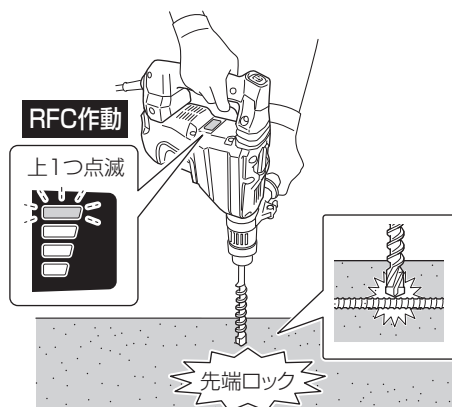
急激な負荷を発生させる原因

- ① 材料による先端工具のかみ込み
- ② 釘・金属などの接触
- ③ 機体をこじる作業・過度な押し付け

など、および、これらの複合的な原因があります。

RFC が作動したら…

RFC が作動してモーターが停止したときは、スイッチを切り、大きな負荷となった原因を取り除いてから作業を再開してください。



スリップクラッチ機構について

この機構は、作業中の機体に急激に大きな負荷がかかったとき、モーターと先端工具の間の伝達部をスリップさせて、直接大きな反力がかかることを防止します。
(注1)
(注2)

注 1: コンクリートの穴あけ中に、鉄筋等に当たり急に先端工具が止まろうとする力

注 2: 先端工具が急に止まったとき、反動で機体側が回ろうとして、持っている手がねじられる力

注 スリップクラッチが作動し、先端工具の回転が停止した場合には、速やかにスイッチを切ってください。

作業上のご注意

● 連続作業について

本機はモーターおよびモーターの駆動制御を行っている電子部品を保護するため、温度保護回路が搭載されています。

連続作業を行うと、機体の温度が上昇するため温度保護回路が作動し、自動停止する場合があります。

その際は本機を十分に冷ましてください。温度が下がれば再び使用することができます。

● 機体の保持と押し付け力について

機体を両手で確実に保持してください。また、先端工具を必要以上に押し付ける必要はありません。

先端工具にこじる力や押し付ける力が過度にかけると、機体が故障する原因になります。

穴をあける

[回転+打撃]

●コンクリートの穴あけ ●アンカ下穴の穴あけ

警告

サイドハンドルとハンドルをしっかり握って作業してください。

工具が鉄筋などに当たると急に止まり、その反動で機体が回ろうとします。

1 工具を取付ける



P.13「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。



2 必要に応じてストッパを 取付ける



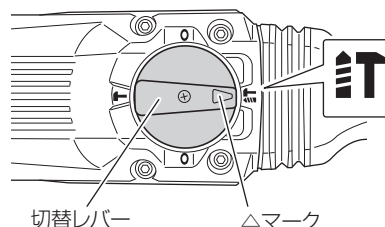
(P.14「ストッパの使い方」参照)



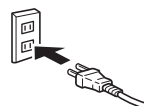
3 作業モードを [回転+打撃]に 切り替える



△マークをⓘに合わせます。
(P.15「作業モードの設定」参照)



4 電源プラグをコンセントに さし込む



5 変速スイッチを設定する

変速スイッチを押して、作業に応じた
回転数・打撃数を設定します。

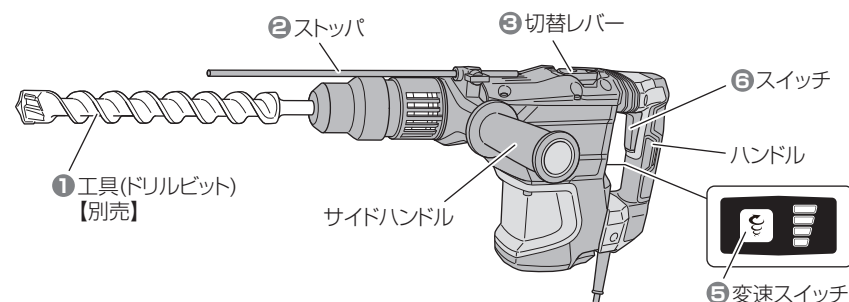
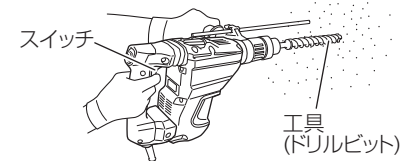
(P.17「回転数・打撃数の調整」参照)

注 気温の低いとき、あるいは長期間使
用しなかったときなどは、5分ほど
空運転し、機体が暖まってから使用
してください。

グリースが固くなり、モーターが作動
しても打撃しない場合があります。

6 スイッチを入れる

穴あけ位置に工具の先を軽く当ててか
ら、スイッチを入れます。



ハツリ・破碎する

[打撃]
コンクリートのハツリ・破碎・溝掘り・
角出し・切断・はがし

⚠注意

ハツリ・破碎用工具などは[打撃]の位置で使用してください。
[回転+打撃]の位置で使用すると工具が回り、事故の原因になります。

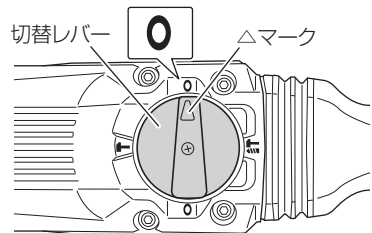
1 工具を取付ける

P.13「工具の取付け・取りはずし」の
手順に従い工具を取付けます。



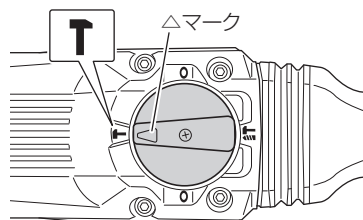
2 工具の向きを決める

コールドチゼル、カッタ、スコップを
使用するとき、△マークを0に合わ
せ、工具先端の向きを決めます。
(P.15「作業モードの設定」参照)

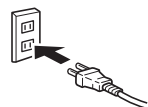


3 作業モードを[打撃]に切り替える

△マークをTに合わせます。
(P.15「作業モードの設定」参照)



4 電源プラグをコンセントにさし込む



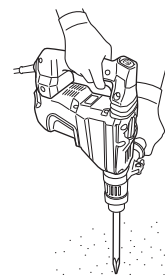
5 変速スイッチを設定する

変速スイッチを押して、作業に応じた
打撃数を設定します。
(P.17「回転数・打撃数の調整」参照)

注 気温の低いとき、あるいは長期間使
用しなかったときなどは、5分ほど
空運転し、機体が暖まってから使用
してください。
グリースが固くなり、モーターが作動
しても打撃しない場合があります。

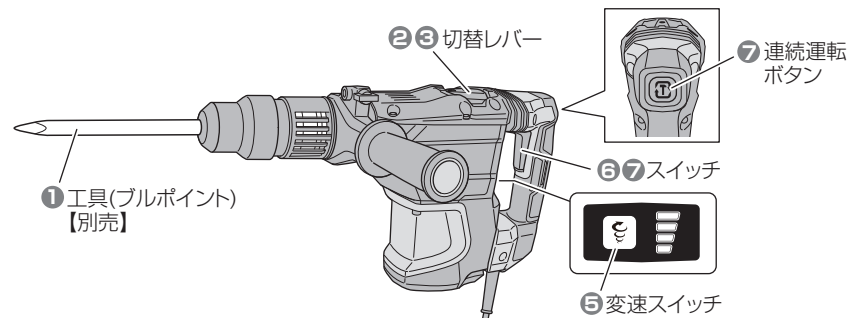
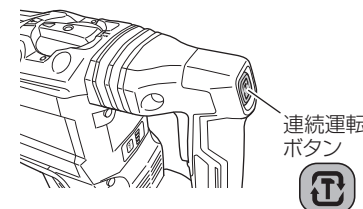
6 スイッチを入れる

ハツリ・破碎する位置
に工具先端を当ててからスイッチを入
れます。
床面のハツリ・破碎の
際には、機体の自重を
利用し、反動を押さえる
程度に押し付けて作業
してください。



7 連続運転を使う

必要に応じて連続運転を使います。
連続運転ボタンを押すと、スイッチから
手をはなしても停止しません。
(P.16「連続運転ボタンについて」
参照)

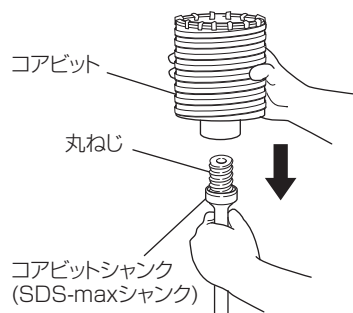


コアビット【別売部品】の使い方

コアビット、センタピン、コアビットシャンクなどのコアビット用別売部品を使用すると、大口径の貫通穴、止まり穴をあけることができます。
切替レバーを[回転+打撃]の位置にして使用してください。

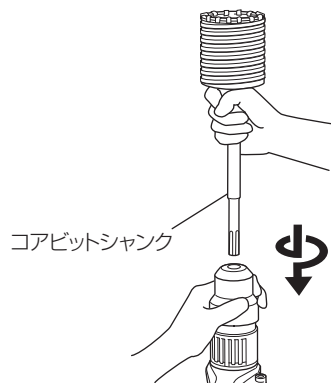
1 コアビットシャンクに コアビットを取付ける

丸ねじ部に油を塗っておくと、分解するときにゆるみやすくなります。



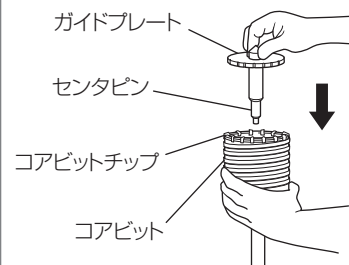
2 コアビットシャンクを 機体に取り付ける

P.13の「工具の取付け・取りはずし」と同じ要領で取付けます



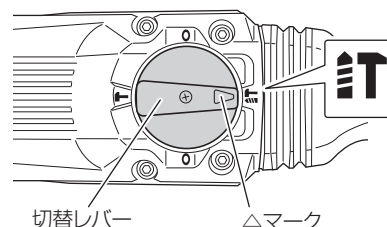
3 ガイドプレート、センタピンを コアビットにさし込む

- ① ガイドプレートにセンタピンを奥までさし込みます。
- ② ガイドプレートの凹部をコアビットチップに合わせてはめ込み、左・右どちらかに回します。

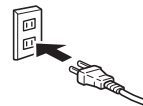


4 作業モードを [回転+打撃]に 切り替える

△マークを「IT」に合わせます。
(P.15「作業モードの設定」参照)



5 電源プラグをコンセントに さし込む

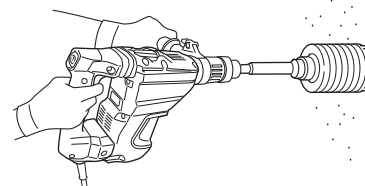


6 変速スイッチを設定する

変速スイッチを押して、作業に応じた回転数・打撃数を設定します。
(P.17「回転数・打撃数の調整」参照)

7 スイッチを入れる

あけたい穴の中心にセンタピンを合わせ、穴あけを開始します。

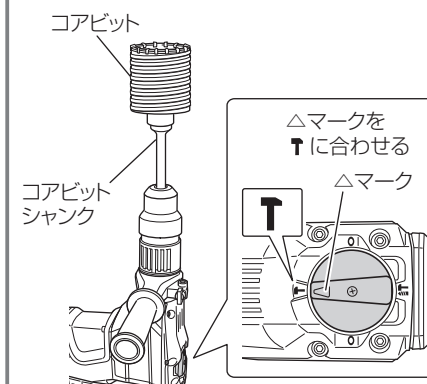


8 位置決めの完成

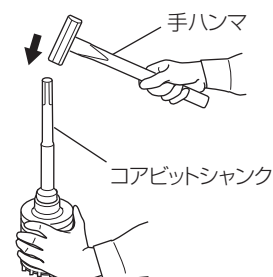
約5mm穿孔すると、位置決めの溝が完成します。
コアビットからセンタピン、ガイドプレートを取りはずします。
完成した位置決めの溝に合わせて、穴あけを再開します。

9 コアビットを取りはずす

- ① 作業モードを[打撃]にし、コアビットシャンクを機体に挿入したまま上向きにして、2～3回無負荷運転で打撃します。
これでコアビットとコアビットシャンクの締付けがゆるみます。



- ② 機体からコアビットシャンクをはずしてコアビットを手で持ち、コアビットシャンクの頭を手ハンマで2～3回強打すると、丸ねじがゆるみ、取りはずすことができます。



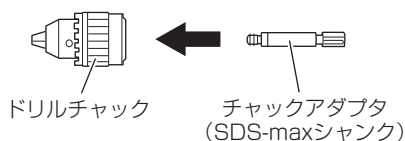
ドリルチャック【別売部品】の使い方

ドリルチャック、チャックアダプタを取付けると、ドリルとして使用できます。
切替レバーを[回転+打撃]の位置にして使用してください。

⚠注意

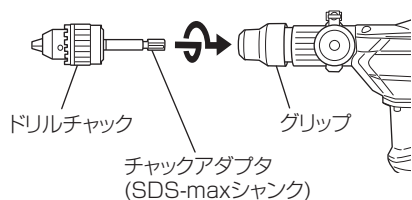
穴の抜けぎわにドリルを折ることがありますので、穴の抜けぎわに機体を材料に押し付ける力をゆめてください。

1 ドリルチャックにチャックアダプタを取付ける

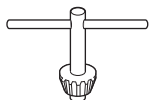


2 機体にチャックアダプタを取付ける

P.13の「工具の取付け・取りはずし」の手順に従い、チャックアダプタを取付けます。



3 市販のドリルを、チャックハンドルでドリルチャックに取付ける



4 以下 P.21「穴をあける」の②からの手順に従い作業する

🛡保守・点検

●グリースの交換

この機体はグリース密封構造となっており、ほこりの侵入を防ぎ、長期間無給油で使用できます。

しかし、機体を長持ちさせるために6か月ごとにグリースの交換をしてください。

注 機体へ使用しているグリースは特殊グリースです。他のグリースを使用した場合、性能を損なう恐れがありますので、グリースの交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

●工具の点検

摩耗した工具を使用するとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますので早めに研磨するか新品と交換してください。

●機体の点検

各部品の取付けに、ガタつきやねじのゆるみがないか定期的に点検してください。

ねじがゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。

異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。

ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）（P.7「各部の名称」参照）に油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

注 ごみやほこりを排出するため、定期的に、モーターを無負荷運転させてください。
機体内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が 50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所